

豆力士の

好取組に歓声

下榎すもう大会

下榎の摩利支天神社の伝統的な行事、下榎すもう大会が8月23日、同神社広場で開かれました。

夕方から始まった大会には、町内外から多くの子どもや大人が参加。各部門ごとに力を競い合いました。

なかでも小学生以下の豆力士たちの取組には大きな声援が飛び、とても盛り上がりつつありました。

参加した西村彩花さん（6歳・下榎）は、「1回だけ勝ちました。相手を投げ飛ばした時がうれしかったです」と笑顔で話していました。



暑さを吹き飛ばす熱戦に歓声上がる



指導を受けプランターを作る児童ら

花がいつぱいの きれいな町へ

根雨小学校の児童が木製プランターづくり挑戦

花のあるきれいな町を目指すそうと、9月1日、根雨小学校の児童が、木製プランターカバ―づくりに挑戦しました。町商工会関係者3人を講師に招き、同小学校5・6年生が、金づちやドリルを使い木製のプランターカバ―を約50個作り上げました。

同校5年生の木山陽平さんは「心を込めて作りました。きれいな花が咲いてほしいです」と話していました。

今後、小学校では、カバ―に塗料を塗り、学校内で育てているペゴニアの苗を町内に置くよう予定しています。

新芽を食べて 健康な体に

おしどり調剤薬局が
ブロッコリー新芽を栽培

栄養の高いブロッコリーの新芽（スプラウト）を、おしどり調剤薬局有限公司（宇田勳代表取締役）が、9月8日から本格的に栽培出荷を始めた。

宇田勳さんは、1年半前から「多くの人に食べ物で健康になってほしい」と研究を重ね、発芽野菜に含まれる豊富な栄養分に注目。ミネラルやビタミンが豊富で、成熟のものより数十倍の免疫力が含まれていることから、ブロッコリーの新芽栽培を考えました。下菅の工場ですべて無農薬で栽培され、宇田さんは「今後特産品のそばや玄米の新芽を作り、みなさんの食生活改善を手がけていきたい」と抱負を語りました。



新芽を紹介する石田さん

指で描く芸術に感動

指画家 濱田壽峰さんの第2回郷里がえり展



子どもに指画を指導する濱田さん

日野町根雨出身で中国に伝わる珍しい画法の指画家、濱田壽峰さんの郷里がえり展が、8月21日から24日まで、山村開発センターで開かれました。

展示会には、筆を使わず手・指・爪などで描く指画や水彩画など約90点を展覧。訪れた人々は、色鮮やかなオンドリや牡丹など多くの絵を見て感動していました。また、8月22日には、指画のすばらしさを多くの人に体験してもらおうと、体験教室が同会場で開催されました。子どもから大人まで22人が参加。濱田さんの指導のもと、野菜「かぼちゃ」を描きました。濱田さんは「指画は心が伝わりやすい。無心で書くことが

大切です」と指導。教室に参加した音田里穂さん（根雨小3年・別所）は「思っていたよりも上手くできました。色を混ぜて表現するのが難しかったです」と自分の作品を満足そうに見ながら話していました。9月4日には、濱田さんが「子どもたちの絵画活動に役立ててほしい」と水彩画と金一封を町に寄付。水彩画は、大山の南壁を背景に、わら屋根や菜の花などを描いたもので、昭和54年の日本水彩画展に入選した作品です。



水彩画「御机の春」を寄贈